

## 第22回へブンアーティスト審査会 審査講評

第22回へブンアーティスト審査会の席上でのコメントを紹介します。審査の基準がよく分からないというアーティストや、今後自分のどこを改善し、どこを伸ばせばよいか分からないというアーティストにとって、これまで見えていなかった視点を示す光明になれば幸いです。

これからへブンアーティストとして活動するスタート地点に立ったアーティスト、これからへブンアーティストの審査を受けようとするアーティスト、全てのパフォーマンスアートや音楽演奏の道を志すアーティストに対し、さらに技術や魅力を伸ばしてほしい、また、既存の枠や殻から突き抜けてほしいというメッセージを込めています。

## (審査について)

「へブンアーティスト審査会」も今回で22回を数え、20年目を迎えました。

今回は、パフォーマンス部門91組、音楽部門57組の合計148組の応募がありました。

一次審査では、応募者が提出した動画を視聴し、魅力や独創性、将来性を感じ、観客を前にした実演を実際に見てみたいと思われるアーティスト（パフォーマンス部門32組、音楽部門9組の合計41組）を一次審査通過者として選定しました。

二次審査は、東京芸術劇場の劇場前広場で、観客の前で約15分の公演を行ってもらい、その様子を審査しました。

## (審査講評について)

実演を見た直後に行う審議であがった、審査の基準や評価の考え方の参考になるようなコメントを部門別に紹介します。

## (パフォーマンス部門)

合格点に達したアーティストの評価できる点としては、以下のとおりです。

- 人形や仕掛けがよくできていて、突き抜けた迫力と面白さがあった。たまたま大道芸をみた人がポジティブになることができるパフォーマンスだった。
- 居住まいが素晴らしく、話に引き込まれた。
- 個々のキャラクターがはっきりしており、それぞれのできることを模索してグループとして構成している点がよい。
- オリジナリティがあり、内容も作りこまれていて完成度が高かった。
- よくある手品を演出とキャラクターでみせており、くどすぎずちょうどよい笑いが心地よく、面白かった。
- 道具や衣装がよく、地味に見えがちな道具を用いてショーとして成立させる構成もよかった。コンビネーションもよく真面目に取り組んできたのが伝わる内容だった。
- 道具や衣装を工夫が見られ、ヴィジュアルのバランスが取れており世界観がまとまっている。

○オリジナルのパフォーマンスで、よい空気感を作り出しており、生演奏で楽しさがアップした。

○雰囲気明るく、独自の演出があり、動きが曲や歌にあっていてよい。

一方で、あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点は、次のとおりです。

○緊張のためかミスが目立ってしまった。好感もてるキャラクターを活かしたりカバーや演目のつなぎトーク、構成などさらに工夫の余地があるので頑張してほしい。

○派手さはないが淡々と楽しめる構成で、オリジナリティを持つ工夫をしている点はよかったが、完成に至っていないため中途半端な印象を受けた。内容を充実させてほしい。

○衣装をきちんとしておりよく、パフォーマンス内容のレクチャーがあり普及面でよいと思うが、肝心のダンスが単調でステップが曲とあっていなかった。楽器など加える工夫があると本場の感じが出るかもしれないので研究を期待したい。

○BGMなしでの大道芸マジックに挑戦し、しゃべりが丁寧でやわらかいところに好感がもてた。マジックのタネが見えてしまうところを活かす工夫を期待したい。

○技はあざやかであるが、観客から見えづらいパフォーマンスなので、その点を考慮した話し方や見せ方の工夫がほしい。

○一生懸命さが伝わってきたが、身体の使い方に切れがなく、こなれていない印象。場数を踏んで、見せ方・演出の工夫してほしい。

○新しいことに取り組みたいという意欲を感じるが、トークの間がよくなかったので、いっそコミカルにするなど工夫してほしい。

○詰め込みすぎのため、せわしくひきこまれにくいので、ほどけた靴ひもを直す余裕をもてほしい。

#### (音楽部門)

音楽部門では、合格点に達するようなアーティストの評価できる点は、以下のとおりです。

○演奏もMCも成長が見られた。

○キャリアを感じる演奏だった。

○演奏や歌がうまく、今までにないジャンルでよい。

一方で、あと一步届かなかったアーティストに対して改善を期待する点や、合格に達したアーティストでも評価につながらなかった点は、次のとおりです。

○アコースティックのみというところがよかった。よい雰囲気を持っているので、コスチュームに気を配るとさらによい。

○コピーだけでオリジナリティがみられなかった。演奏もダンスも中途半端な印象を受けた。大道でやるのであればさらに頑張してほしい。

○歌はうまいが、どの曲も同じように聞こえるので、音量を一部押さえるなど工夫があってもよい。

- 選曲が大道芸的でなじみやすく、楽器の説明も短くてわかりやすくよかった。演奏ではパンチ不足が気かりで、管楽器だけでは難しい面があるのであれば、リズム楽器を取り入れるなどするとよい。
- MC もよく、衣装や照明などに見せる工夫もよかった。バリトンサクソもマイクでひろった方がよい。ただ、一般受けが難しいジャンルを大道で挑戦するための何かが足りないので、工夫を期待したい。

(全体総括)

公開審査では、東西の伝統芸能を担う方も参加されました。また、オリジナリティのある内容で挑戦された方、過去の審査講評を咀嚼して自身のパフォーマンスに反映して再挑戦された方もいました。

こうしたアーティストの方たちと同じ場に立つことが切磋琢磨する機会となることを願いつつ、今回の講評も「あと一歩頑張ってもらいたい」という期待を込めています。

残念な結果となった方も、再びチャレンジしてほしいと思います。

安全面での配慮を重ねてお願いします。大道で演じるときには、基本的な安全対策を必ずとってください。観客と演者の安全は、第一に確保されていなければなりません。

また、活動した場の原状回復は、公共空間において活動する上で前提です。無断で活動場所の壁面や敷石を強くたたいたり傷をつけたりすること、使用した道具を回収しないあるいはできない状況になるということは、施設設備の破損や思わぬ事故につながるおそれがありますので、よく考えて活動を行ってください。

最後になりましたが、パフォーマンスアートや音楽演奏の道を志す全てのアーティストのさらなる飛躍を期待します。

ヘブンアーティスト審査会

審査委員長 森 直実

審査委員 (パフォーマンス部門) 芦部 玲奈、大久保 砂智子、乗越 たかお  
(音楽部門) 梶 奈生子、松村 正人